



◆かがみ野俳句会◆

隠れ江の紺となりゆく花吹雪
草抜きて水汲み置くや春土用
大梁の黒光りする春喫茶
去りがたく戻りて見上ぐ里桜
参道のぼつり濡るる余花の雨
明け方の稜線が好き春が好き
山ひだの一角桜燃えてをり
縮台に春色あふれ昼深し
遠桜天水田は日に照りて

佐竹 洋子
鍵山 和枝
佐藤 幸
利根 弘子
古川 信子
小松 愛子
西内 保衛
中澤 美晴
吉田 芳

◆かほく句会◆

陽を風を春田の中にひとりじめ
花の雨嫁の土産に和みけり
囀りの声を聞き分け草を引く
日照雨止み筍さぐる足裏かな
のど自慢までを目安に畦を塗る
ふるさとの母とゆく道士筆生ふ
ウインドに姿勢正して春の街
ぬくとしと思ふ千体流しかな
溪に降る雨の明るき山つつじ
椿落つ幽けき山の音の中
さくらさくら心自在に遊ばする

乾 真紀子
奥宮さとみ
黒岩 幸女
久保 貴女
小松 隆之
杉山 春萌
西本 昶猪
前田 秀女
間崎 和代
前田 欣一
森本 之子

◆葎句会◆

花映す水面を風が滲ませて
旭の差して軒端に納屋に燕来る
真つ直ぐに生きて行きたし青き踏む
春雷に駆け込む客と話しこむ
早乙女が見守る田植え大型機
賑はひをさけて二人の花筵
踏張るも力入らず畑打つ
蛇穴を出でしばかりに囃されて
黄砂降る迷ひ込みたる山のみち
美容室出でて吹かるる春疾風
神池へ沈める雁木蝌蚪遊ぶ
谷底へ帽子飛ばすな春疾風
ダムの水濁りつゞきて麦青む
母の忌やその日のごとく黄砂ふる
隧道へ吸はる水勢蝮蛇草

山崎かずみ
山中 晶子
山中 瑞輝
山中 明石
吉村 幹愛
高橋富士美
岡本かほる
高橋 章
西川 常夫
北村 幸子
甲藤 卓雄
野崎 典子
北村 里子
明石 英子
竹内 ろ草

◆土佐山田町俳句会◆

あくびして顔の老けたる花の昼
密書かも知れぬ日暮れの落し文
齢ほどの疲れに憩う藤の花
代掻きの仕上げの柄振右ひだり
鈍色の艦よこたわる霾ぐもり
無くなりし村の名をいふ遅日かな
明治村芽花流しの通りすぐ
ふるさとの谷をなぞりて藤の波
仁和寺の御室桜を見にゆかむ

田村 一翠
榎谷 雅道
橋本 昭和
明石 菲生
前田美智子
大石 邦男
安丸 榎子
馬場 英男
前田 隆明

◆投稿作品◆

広報委員会 選
家毎に花美しき四月かな 山崎 富美
生姜植う荒ら雄のつのを埋むること 福留とものり
合併の市制初年度八重桜 前田 小夜
虎杖や茅の株間に凜と立つ 小笠原良子
新市成り役所の庭の新樹光 岡本 朴舟
遠く近く雨呼ぶ声のホトトギス 小野寺 正
卒業式終りてたたむ紺袴 和田 可代
桜散る一片毎に色を変え 三谷 誠郎
谷川に鮪の影あり水ぬるむ 北村千鶴子
聖なりき高野の古木に名残り雪 高野 和一
北国の花の香りし初夏の土地 小野寺朱実
天心に月はかかりて闇深し 山崎 貴子

俳句・短歌の募集について

広報「香美」で掲載する、一般の方の俳句・短歌の作品を次のとおり募集しています。

【投稿方法】

投稿方法は自由。(ただし、官製ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句(首)以内まで)
かい書で、住所、氏名、電話番号を明記してください。
誌面の都合により掲載されない場合があります。

【投稿先】

企画課内広報委員会事務局
〒782-8501 香美市土佐山田町宝町1-2-1
(☎) 53-3114 FAX 53-5958